



Historical / Natural heritage in Amagi town



島のハロウィン???

もちたぼれ

旧暦7~10月には、徳之島の各地で餅もらい行事が執り行われます。名前は様々で、ムチタボレ、ムチムレ、アキムチ、タネブシ、タネツケ、イッサンサンなど。餅もらいの際、家々をまわって歌われるドンドン節のなかでも、兼久では「今日の良かる歳に親種ぐわ浸けてよ 来年の稲様 畦枕」の一節があり、元々は種浸け(種もみを水に浸す)/種おろし(種まき)をし、来年の豊作を祝う行事でした。新暦の10~11月に行うのは、フンニ(本稲)と呼ばれる改良前の古い品種のため、2月ごろ田植えし、6月ごろ収穫しました。奄美大島や喜界島にも同様の行事はありました。西日本を中心とした亥の子祭りでは、旧暦の10月に稲刈りを終えた家々の庭を石や藁束で搗き、餅などをもらいます。ちなみに、ハロウィンは収穫祭で、キリスト教でなく、ケルト人の古い風習でした。九州以北の秋祭りは収穫祭の意味合いが強いのですが、徳之島の餅もらいは豊作の予祝(前祝い)が特徴です。子供たちが植物の大きな葉や竹の皮などで作った仮面や、風呂敷などを被って仮装し、ヤーマワリ(家まわり)するのは、来訪神(子供たち)を歓待することで、来年の豊作と幸せを約束する意味合いがありました。また、後の時代になって、もち米の種浸け/種おろし行事が、稲の収穫祭アキムチ(旧暦8月)、祖霊祭の盂蘭盆会(お盆)、正月送りと結びついて一緒になったため、徳之島では餅もらい行事がいくつかの期日に分かれてしまったと考えられています。

畦枕(あぶしまくら)とは、奄美・琉球の言葉で稲の豊作を意味し、たわわに実った稲穂が頭を垂れて、田んぼの畦を枕にしている様子を表しています。

手々 ムチタボリ

犬田布 イッサンサン

兼久 モチタボレ

面縄 タネブシ



送り盆
新暦 8月15日

旧暦8月 戊の日
新暦 9月8日

旧暦 8月 戊の日
新暦 9月10日

旧暦 10月 午か酉の日
新暦 11月5日

もち米の暦です

戦時中までは、餅といえば
ご馳走の代表だったんだ!



面縄
タネブシ
旧暦10月午/酉の日
(29日)

喜念
タネブシ
旧暦9月丁卯/酉の
3日後(10月3日)

与名間
モチタボレ
(2回目)
旧暦9月

松原
モチタボレ
旧暦9月

当部
アキムチ
(ムチムレ)
旧暦8月15日
十五夜行事

大津川
モチタボレ
(アキムチ)
旧暦8月戌の日
(12日)

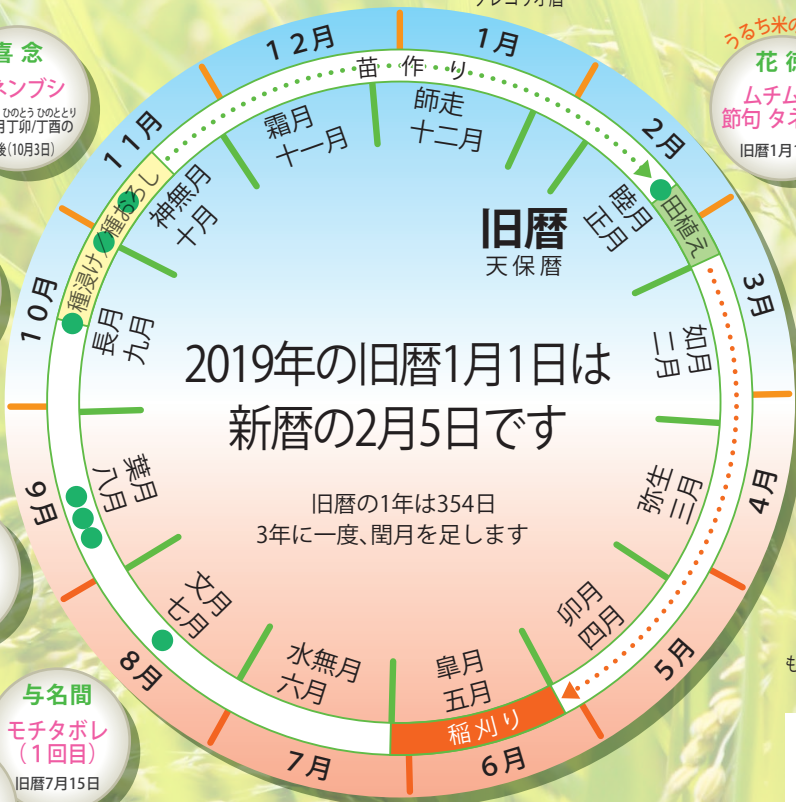
瀬滝
モチタボレ
(アキムチ)
旧暦8月戌の日
(12日)

前野
ムチタボリ
(アキムチ)
旧暦8月戌の日
(12日)

犬田布
イッサンサン
アキムチムチムレ
旧暦8月戌の日
(10日)

手々
ムチタボリ
アキムチ
旧暦7月15日

与名間
モチタボレ
(1回目)
旧暦7月15日



うるち米の種浸け
花徳
ムチムレ
節句 タネツケ
旧暦1月16日

もっと情報が見られる
電子版はこちら

